

2018 年度第 6 回支部集会【関西支部】

2019 年 3 月 23 日(土)10:00-17:10(受付開始 9:30)

武庫川女子大学 中央キャンパス 文学1号館(L1館), 中央図書館(C館)

主催:公益社団法人日本語教育学会 共催:武庫川女子大学

住所: 〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46 (代表 TEL:0798-47-1212)

交通アクセス: 阪神電鉄「鳴尾駅」から徒歩 7 分

詳しいアクセスはこちら☞ <http://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/campus/access.html>

キャンパスマップはこちら☞ <http://www.mukogawa-u.ac.jp/campus/pdf/campusmap-chuo.pdf>

参加費: 1,000 円(当日会場にて現金でお支払いください)

学内での道順 正門から入り、上記キャンパスマップ12番の「文学1号館(L1館)」の入口からお入りください。

L1館入口を歩いて右側にあるエレベーターで8階まで移動し、受付のあるL1館803教室前にお越しください。

エレベーターを降りてすぐ前が受付となります(L1館とC館は繋がっています)。

申込方法 どなたでもご参加できますが、ご参加予定の方は、**学会ウェブサイトのマイページ**から3月19日までに

事前参加登録をお願いいたします。事前参加登録方法について詳しくは、**こちら**をご覧ください。非会員の方も

「マイページ」をご利用いただけます(年会費納入等は不要です)。ウェブサイト上の作業がうまくできない方は5

ページ下段にある問合先までご連絡ください。

◆支部集会日程◆

9:30	受付開始 ※昼食休憩(飲食可)は【L1館8階 804 教室】でお願いします。学内の食堂等は営業して おりませんので、昼食等は各自ご準備ください。クロークも設置予定です。	【L1館8階 803 教室前】
9:30-16:00	賛助会員ブース(書籍展示販売, 他) (株)国書刊行会/国書日本語学校・(株)凡人社・(社)グローバル 8	【C館8階 802 教室】
10:00-10:15	開会式	【C館8階 804 教室】
10:30-12:10	口頭発表<午前の部>	【C館8階 804 教室】
10:45-12:15	交流ひろば<午前の部>	【C館8階 807 教室, 808 教室】
12:30-13:30	チャレンジ支援委員会「発表応募支援セミナー&個別相談」	【C館8階 808 教室】
13:00-15:15	口頭発表<午後の部>	【C館8階 804 教室】
13:45-15:15	交流ひろば<午後の部>	【C館8階 807 教室, 808 教室】
15:30-17:00	パネルディスカッション	【C館8階 804 教室】
17:00-17:10	閉会式	【C館8階 804 教室】

開会式 【10:00-10:15】

会場: C館8階 804 教室



口頭発表 【午前の部 10:30-12:10／午後の部 13:00-15:15】

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム p.6～, 詳細は予稿集原稿をご覧ください。

<午前の部 会場:C館8階 804 教室>

- ① 10:30-11:00 慣用表現に対応したやさしい日本語書き換えシステム
金庭久美子(立教大学)・川村よし子(東京国際大学)
- ② 11:05-11:35 日本語学習者の作文における副詞使用傾向について
—日本語学習者作文コーパスを資料として—
本廣田鶴子(大阪大学大学院研究生)
- ③ 11:40-12:10 中国で出版されている日本語教科書における受身の扱いをめぐる考察
李偉(大阪大学)

<午後の部 会場:C館8階 804 教室>

- ④ 13:00-13:30 在日ベトナム難民はいかに日本語を学んできたか
—教室外の日本語学習に注目して—
林貴哉(大阪大学大学院生)
- ⑤ 13:35-14:05 中国人学習者のビリーフと学習ストラテジーに関する調査研究
朱一平(神戸大学大学院生)
- ⑥ 14:10-14:40 日本語学習マイノリティへの支援に関する一考察
—クルド人コミュニティにおける日本語習得状況調査から—
片山奈緒美(筑波大学大学院生)
- ⑦ 14:45-15:15 短期日本語プログラムにおける日本人学生の学び
—交流授業における言語的調節からわかること—
牛窪隆太(関西学院大学)

交流ひろば 【午前の部 10:45-12:15／午後の部 13:45-15:15】

<午前の部①～③ 会場:C館 807 教室>

- ① 新しい中級教育の提案—テーマ中心による表現力・思考力養成の教育とは—
小原俊彦(大阪大学)・滝井未来(同)・岡崎洋三(同)
わたしたちNJ研究会は、対話論的言語観に基づいて新しい第二言語教育の理論と実践の創造を目指す言語教育者の有志の集まりです。今回、わたしたちは、テーマ中心で表現力と思考力の養成に重点を置いた中級日本語教育を提案し、参加者の皆さんと意見を交わし、各々が抱える様々な実践の問題について共に考えたいと思います。



② 「できない」から「できる」への挑戦 : 初中級レベルで伸び悩む学習者と教科書『できる日本語初中級』について考える

森川結花 (甲南大学)

私達のプログラムでは、様々な要因から日本語学習に伸び悩む学習者に対してどのように指導していくかが積年の課題ですが、2年前に初級および初中級レベルの教科書を『できる日本語』に切り替え、新たな発見と挑戦を続けています。そこで得た知見を共有するとともに、皆さんからもご意見をいただければと思います。

③ 表現活動中心の日本語教育, Show and Tell (S&T) 実践報告 (実施背景, 実施方法, 学生からの反応, 今後の展開などについて)

矢部正人 (大阪大学)

中級レベルの日本語を履修している留学生を対象に、「表現活動中心の日本語教育」の一環として、Show and Tell (S&T) を担当しています。当方が実践している事例を紹介し、日本語の授業でプレゼンテーション (口頭発表, 口語表現など) を実施している先生がた、およびご興味のある方々と、効果的な方法、問題点などについて、意見・情報交換をする機会が持てればと思っております。是非、ご意見などお聞かせいただければと思います。よろしくお願いたします。

< 午前の部 ④⑤ 会場:C館 808 教室 >

④ オブザーブ制度における指導者側と授業者側の相互行為分析

— 現職日本語教師を対象として —

野瀬由季子 (大阪大学大学院生)

日本語教育学における教師教育と授業研究を扱う研究です。現職日本語教師に対しては、実践力向上のために様々な取り組みが各教育機関で行なわれています。本研究は、こうした取り組み (制度) を形だけの存在にせず、教師の成長を促すよう機能させることを目指しています。皆様からご指摘をいただき、学術的・実践的意義のある研究としてまとめていきたいです。

⑤ 「土曜の会」がめざすもの—理論と実践から異なる現場を結ぶ

宮本敬太 (桃山学院大学)・前野文康 (KIJ 語学院南校)・中島敬之 (京都大学大学院生)・

小出寿彦 (東京福祉大学)・西村聖子 (大阪文化国際学校)・牛窪隆太 (関西学院大学)

「土曜の会」は、立場の違いを超えて関西で言語教育に携わる者が議論する場の形成をめざして、教員有志によって立ち上げられた研究会です。読書会と会員による実践報告を軸として、2016年5月から毎月一回土曜日に開催されており、多様な現場で教育に携わる者が参加しています。本ブースでは、活動内容を紹介し、キャリア形成をテーマに意見交換を行うことで、参加者間での交流を図ります。



<午後の部⑥⑦ 会場:C館 807 教室 >

⑥ オンラインコース「関西弁入門 A2 自習コース」の紹介と活用方法の提案

東健太郎（国際交流基金関西国際センター）・三宅直子（同）・北口信幸（同）

「関西弁入門 A2 自習コース」は 2018 年 8 月に日本語学習プラットフォーム「JF にほんご e ラーニング みなと」に開講した自習コースです。コースでは関西弁の特徴と、コミュニケーションを動画で楽しく学べます。当日は、コースの内容を紹介し、教育現場でどのように活用できるか、みなさんと情報交換ができればと思います。

⑦ 地域を題材にした多読教材作成と多読実践の紹介

加藤みゆき（東京外国語大学）・住田環（立命館アジア太平洋大学）・豊田真規（同）・香月真由美（ことば塾）・片山智子（東京大学）

私たちは日本語学習者向けに日本の地域を題材にした多読教材を作成する活動を広げたいと考えています。今回、大分県を題材に多読教材を作成しました。また、地域を題材にした多読教材を使った多読実践も試みました。自分たちが住んでいる地域や身近なものを題材にしたやさしい読みものづくりや多読実践に興味のある方々と情報交換ができればと思っています。

<午後の部⑧⑨ 会場:C館 808 教室 >

⑧ 「漢字マップ」で漢字学習を創造的に

関麻由美（津田塾大学）・本土勝己（芦屋大学）

漢字学習はとかく教師からの知識注入型になりがちです。学習者主体の楽しい活動のひとつとして、私たちは「漢字マップ」の作成を実践しています。実際に学習者の作成した「漢字マップ」もご紹介しますので、ぜひご覧ください。それぞれの教育機関に合わせてどのように応用できるか、一緒に考えることができたらと思います。

⑨ 中上級日本語学習者向けのコロケーション検索システム「かりん」（スマホ版）の開発

中溝朋子（山口大学）・坂井美恵子（大分大学）・金森由美（同）

私たちは、主に中上級レベルの留学生がレポートを書くときに使用できる、コーパスデータに基づいたコロケーション検索システム（スマホ対応）を開発しました。ぜひ閲覧・体験していただき、ご意見・ご感想をいただけたらと思います。



チャレンジ支援委員会 発表応募支援セミナー&個別相談会

【12:30-13:30】 会場:C館8階 808 教室

■「発表応募支援セミナー」<前半>:「そろそろ何か発表してみたいけど、どうやったらいいの?」、「応募したけど不採用だったのは何がいけなかったの?」。そんなお気持ちを持っていらっしゃる皆さんを支援するのが、私たち「チャレンジ支援委員会」の使命です!今年度も関西支部集会にお邪魔して「発表応募支援セミナー」を行います。

■「個別相談会」<後半>:「おせっかい侍」の面々が応募書類のチェックや、みなさんの研究スタートアップのお悩みについて、個別にご相談に応じます。支部集会・大会の発表応募書類のチェックをご希望される方は、学会ウェブサイト支部集会ページにある、「公益社団法人日本語教育学会発表要領」「発表要旨・web用要旨ファイル(zip圧縮フォルダー式)」をご覧・ご記入の上ご持参ください。

※<前半>または<後半>だけ参加の方も歓迎します。

すでに発表をお考えの方も、これからという方も、ぜひこの機会をご利用ください!

パネル・ディスカッション 【15:30-17:00】 会場:C館8階 804 教室

「技能実習生への日本語教育を考える」

パネリスト: 田尻 英三氏 (龍谷大学名誉教授)
宮本 敬太氏 (グットハーモニー協同組合)
樋口 尊子氏 (NPO東大阪日本語教室)

入管法改正による今年4月からの「外国人労働者」の受け入れ拡大を受けて、日本語教育の社会的役割について考え、そして行動することが喫緊の課題となっています。そこで本パネルでは、その第一歩として、これまで日本社会の人手不足の産業分野の現場における労働力不足を実質的に補ってきた技能実習制度の概要を理解し、彼らに対する日本語教育の現場の「声」をもとに課題を共有することで、日本語教育に携わる私たちに、今何ができるかを考えるきっかけにしたいと思います。

【17:00-17:10】 閉会式 会場:8階 804 教室

◆問合先◆公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会
〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会新館 2F
TEL:03-3262-4291 FAX:03-5216-7552 E-mail:shibu@nkg.or.jp



〔2018 年度第 6 回支部集会(武庫川女子大学, 2019.3.23)発表・口頭発表①〕

慣用表現に対応したやさしい日本語書き換えシステム

金庭久美子・川村よし子

近年、行政書類、防災、観光などを目的としたやさしい日本語の必要性が高まっており、やさしい日本語のためにさまざまな工夫がなされている。こうした中、発表者らは日本語学習者のための読解支援の一つとして慣用表現をやさしい日本語で示すことが必要であると考えた。そこで、本研究では慣用表現にも対応可能なやさしい日本語書き換えシステムの開発を目指した。本研究が開発したシステムには2つのコンテンツがある。1つは学習者のためのもので、web サイト内のテキストボックスに文章を入力すると慣用表現の意味がやさしい日本語で説明されるというものである。もう1つは慣用表現を登録するためのもので、教師が入力した文章内に慣用表現があればその表現とその意味をやさしい日本語で登録するというものである。登録された慣用表現は管理者が承認すれば、学習者用の辞書に適用される。このシステムにより学習者は慣用表現の意味理解も容易になる。

(金庭—立教大学, 川村—東京国際大学)

〔2018 年度第 6 回支部集会(武庫川女子大学, 2019.3.23)発表・口頭発表②〕

日本語学習者の作文における副詞使用傾向について

—日本語学習者作文コーパスを資料として—

本廣田鶴子

初級段階で副詞は主要な指導項目として表れることは少ないが、中上級での指導を通じて、副詞の習得は進んでいくのだろうか。本研究では2013年に公開された『学習者日本語作文コーパス』の304名分の作文データを基に副詞の使用範囲と使用例を検討し、学習者の初級段階での副詞提示について考察する。

まず、電子化されたテキストから副詞を抽出し、副詞の異なり語数、のべ語数の中で、初級副詞の占める割合を調べたところ、それぞれ40パーセント、82パーセントであった。初級段階の副詞が大きな役割を果たしていることが読み取れる。次に、資料収集者によって施された誤用タグを基に、ご用例を検討し、誤用の多い語、誤用のない語、誤用数と誤用の種類を分析した。誤用がみられなかった語は「かなり」「全然」「もちろん」で、多種類の誤用がみられた語は「もう」「もっと」「よく」であった。

初級段階から、自然な文脈の中での副詞提示が求められる。

(大阪大学大学院研究生)



〔2018 年度第 6 回支部集会(武庫川女子大学, 2019.3.23)発表・口頭発表③〕

中国で出版されている日本語教科書における受身の扱いをめぐる考察

李偉

日本語の受身文は、主語の立て方、視点の捉え方の差異、文脈情報の読み取りなどの要素が絡み合い、中国人学習者にとって、日本語の受身文は習得難易度の高い文法項目の一つである。李(2018)の調査から見られた受身文に関する中間言語的な表現は中国で出版されている日本語教科書における扱いとのつながりを考察していくために、現在中国の高等教育機関で使用されている初級・中級段階の日本語教科書5種類(計18冊)を調査し、分析対象となった中国の日本語教科書における受身文の提出順序や、解釈の仕方、例文の提示状況などの特徴を整理した。その誠意の結果に基づいて、視点の角度から日本語の受身文指導法に関する議論をさらに深く検討していくための教育的な示唆を行った。

(大阪大学)

〔2018 年度第 6 回支部集会(武庫川女子大学, 2019.3.23)発表・口頭発表④〕

在日ベトナム難民はいかに日本語を学んできたか

—教室外の日本語学習に注目して—

林貴哉

日本がベトナム難民の定住を許可してから約40年が経過した。生活指導や日本語教育を受けてから定住を開始するが、その後は日本語教室に通うことなく生活する場合も多い。本研究では、日本での定住生活の中で、話し言葉だけでなく読み書きも身につけたという在日ベトナム難民を対象にケーススタディを実施し、どのように日本語を学習してきたかを明らかにする。調査協力者は、定住の過程で生活支援を受ける側から外国人を支援する側への変化があり、日常生活における課題を、日本語を用いて解決する経験を積み重ねていた。本研究を通して、日本語教室以外の場での日本語学習を促す要因としては、個人的な要因だけでなく、ベトナム人のネットワークを利用できることや、職場において日本語を使用する機会があること、日本語に関連する困難が生じた際に助けを求めることのできる人物が存在することといった社会的な条件も重要であることが明らかになった。

(大阪大学大学院生)



〔2018 年度第 6 回支部集会(武庫川女子大学, 2019.3.23)発表・口頭発表⑤〕

中国人学習者のビリーフと学習ストラテジーに関する調査研究

朱一平

本研究は日本語学習に際しての中国人学習者のビリーフと学習ストラテジーを明らかにすることを目的とする。ビリーフと学習ストラテジー調査を通じて学習者は自らの学習行動を客観的に把握し、教授者も学習者の内面にある心的態度の関係を理解できるようになると考えられる。そこで BALLI と SILL の中国語版を用い、大学で日本語専攻と副専攻の学習者 180 人を調査対象とし、質問紙調査を行った。それぞれの項目に抽出したビリーフの因子と学習ストラテジーの因子に対し重回帰分析を行い、ビリーフが学習ストラテジー選択に与える影響について検討した。その結果、日本語学習に対し積極的なビリーフを持っているが、実際の教室活動においては消極的な学習ストラテジーを持ち合わせている。したがって、教師の介入によるビリーフの変換が可能であるとすれば、積極的な学習の妨げになるビリーフを学習ストラテジー運営に望ましいビリーフへと導いていくことを提案したい。

(神戸大学大学院生)

〔2018 年度第 6 回支部集会(武庫川女子大学, 2019.3.23)発表・口頭発表⑥〕

日本語学習マイノリティへの支援に関する一考察

—クルド人コミュニティにおける日本語習得状況調査から—

片山奈緒美

埼玉県川口市・蕨市周辺に居住するクルド人約 1,200 人の多くは迫害を理由に難民申請しているが認可されず、就労や移動を禁じられた厳しい生活を続けている。日本語習得が進んでいないことも一因となって、日本語環境でマジョリティである特権集団の日本人と衝突しがちなマイノリティであり、有効な公的支援も得られていない。

正式な在留資格はないが、現実に生活実態があるクルド人には何らかの日本語支援が必要である。しかし、母国で十分な教育を受けないまま来日し、自分たちだけで集団行動をとることが多いため、言語の習得に取り組む動機付けに乏しい。本研究はクルド人の日本語に対する意識についてアンケート調査を行ない、文化庁の平成 13 年「日本語に対する在留外国人の意識に関する実態調査」と比較して、他の在留外国人とは異なる事情を抱えるクルド人に有効な日本語支援のありかたを考察する。

(筑波大学大学院生)



[2018 年度第 6 回支部集会(武庫川女子大学, 2019.3.23)発表・口頭発表⑦]

短期日本語プログラムにおける日本人学生の学び

—交流授業における言語的調節からわかること—

牛窪隆太

短期留学生を対象とした日本語学習プログラムにおいて、学生間の交流を目的とした交流授業を実施した。交流授業には、日本人学生が日本語パートナーとして参加し、授業外でのインタビュータスクなど、複数の活動が行われている。このうち、中級コースで実施した「おすすめスポットコンペ」の活動において、留学生からわかりやすいと評価されたパートナー学生 (A) と得票が一番少なかったパートナー学生 (B) について、その違いを明らかにすることを目的として、言語的調節の観点から分析を行った。分析の結果、A は相手の理解を事前に推測し、反応から自身の発話に積極的な修正を加えることで、理解を達成させていることがわかった。一方で、両者ともに、同内容の話を繰り返すことによって、セッションの中でも調節のあり方を変化させており、経験の中で言語的調節を学習していることも示唆された。

(関西学院大学)

